

平成 21 年 9 月 18 日

各 位

日本農産工業株式会社

平成 21 年 10～12 月期の畜産配合飼料価格について

畜産配合飼料価格改定額

弊社は、平成 21 年 10～12 月期の畜産配合飼料価格につきまして、以下の飼料原料情勢等に基づき、平成 21 年 7～9 月期に比較して、全国全畜種総平均トン当たり約 1,300 円値下げすることを決定致しました。尚、改定額は、地域別・畜種用途別・銘柄別に異なります。

飼料原料・外国為替情勢について

1. 原料（飼料穀物）

シカゴ定期とうもろこし期近月限は¢ 300～320/ブッシェルに推移しています。雨による春先の作付の遅れはありましたが、その後、米中西部は良好な天候に恵まれ、とうもろこしの単収は史上最高になると見込まれています。夏の気温が低かったことにより生育は例年よりも 2～3 週間遅れており、早霜による減産懸念はありますが、現時点の天候予測では例年通りの予報である為、大きな減産には繋がらないと見られています。

今後は、穀物相場下落による米国の畜産需要の回復、及びエタノール向け需要の大幅な増加等が値上がり要因として懸念されます。

2. 副原料（植物蛋白原料）

年間 3800 万トン以上的大豆を輸入すると見られている中国の買付によって、シカゴ定期大豆期近月限は¢ 1100/ブッシェル前後の高値推移となりましたが、9 月に入り豊作見通しから下落に転じて¢ 900/ブッシェル台を付けています。円高推移もあり、国内大豆粕価格は 7～9 月期に比較して安くなる見込みです。

3. 海上運賃

中国の旺盛な鉄鉱石・石炭の輸入を背景に、米国ガルフ/日本間パナマックス級本船の運賃価格は \$ 60/トン前後の水準にあります。米国農家は安値を嫌って売り惜しみしているため、米国内の供給数量が減少して、輸出向けとうもろこし価格は上昇しています。日本向けとうもろこしのプレミアムも大幅に高くなっています。

4. 外国為替

雇用なき回復と見られている米国経済回復に対する慎重論が根強く、ドルだけが安い展開となり、ドル円相場は 90～95 円で推移しています。